

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年 4月 1日	布施高等女学校開校
22年 4月 1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年 4月 1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年 2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年 3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年 4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年 4月 1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年 1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年 1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年 1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年 4月 1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年 4月 1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年 2月 9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年 4月 1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年 4月 1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年 3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年 7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年 3月 1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年 3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年 5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年 4月 1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年 1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年 4月 1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年 4月 1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更

			東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更
			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日		家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日		東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日		健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日		健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日		東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日		東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和3年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (令和2年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (令和2年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	292
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	77
	実践保育学科	90
	介護福祉学科	122
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	711
東大阪大学柏原高等学校	普通科	607
東大阪大学附属幼稚園		276
合計		2,175

4) 役員概要 (令和3年4月1日現在)

(1) 役員 理事 7人、監事 2人 (任期: 令和7年7月3日【7-1-1 除く】)

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理事	栗岡二三子
7-1-3	理事	佐伯 勇
7-1-3	理事	林 健至
7-1-3	理事	筒井 宣興
7-1-1	理事	吉岡真知子
7-1-2	理事	金治 延幸
8	監事	中道 均
8	監事	室井 博子

(2) 評議員 15人 (任期: 令和7年7月3日)

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	仲辻 享治
21-1-1	村上 靖平	21-1-3	金治 延幸
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	寺川 誠
21-1-1	筒井 宣興	21-1-3	大家 浩二
21-1-3	吉岡真知子	21-1-3	三浦 常治
21-1-1	林 健至	21-1-1	山田ゆかり
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-1	森内 徹
21-1-3	西田 眞男		

5) 教職員の概要 (令和2年5月1日現在)

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	10	10	20
東大阪大学	25	23	14	8	70
東大阪大学短期大学部	33	36	16	5	90
東大阪大学敬愛高等学校	45	10	7	3	65
東大阪大学柏原高等学校	49	11	11	9	80
東大阪大学附属幼稚園	17	0	5	4	26
合計	169	80	63	39	351

2 令和2年度事業計画における進捗状況等

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため年度当初から休業が続き、その後は分散登校。通常授業が始まったのは6月15日からであった。この間、学力保障の観点から各教科で制作した学習課題を生徒個々に郵送し、併せて学習動画の配信を展開した。こうした経験からICT教育の重要性を改めて教員一人一人が実感することができた。今年度、新しくICT教育推進部を設け、ICT教育に取り組む礎は、この時に生まれたと思う。

今後は、iPadを使用した授業展開はもちろんのこと、HPを活用した学校紹介の充実も図っていきたい。

1. 教科指導と基礎学力の向上

主体的・対話的な学習が叫ばれている中では、特に生徒個々のキャリアを保障する観点からも基礎学力を育成し、自らが学ぼうとする力を培うことが重要となってくる。こうしたことが、社会を生き抜くための力を育成することに直結する。この育成のためには教員一人一人が授業研究活動に力を注ぎ、情報交換を密にし、互いに切磋琢磨し研鑽を重ねることが必要となる。

(1) 基礎学力の向上と定着

基礎学力の向上は本校生徒にとって最重要課題である。1年次では国語・数学・英語の3教科で、中学校までの学習内容を振り返り、積み残してきた内容を再確認する授業を展開した。各学年で実施している「基礎力診断テスト」を中心とし、生徒個々の苦手な分野を確認し、それを補っていくことにも取り組んだ。また「総合的な探求の時間」や選択科目「キャリア」を活用し、SPIを用いた漢字・計算などや文章力、表現力の向上など、進路の実現に向けた基礎学力の向上に取り組んだ。

(2) 授業力向上に向けた実践

令和2年度はコロナウイルス感染防止のため、授業公開・研究授業は実施できなかったが、タブレットなどを活用した授業を展開することにより、生徒に適応した授業展開（わかる授業・興味関心を引き出す授業）を研究し、実践に向けて取り組んだ。

(3) 選択科目の系列化での学び

令和元年度から「調理系列」と「アニメ・イラスト系列」は、それぞれ調理コース・美術コースとコース化した。1年次ではコース変更を視野に入れ開講した。そのため今年度、美術コースへのコース変更をした生徒があった。「漢字検定系列」・「英語検定系列」・「数学検定系列」では、生徒の能力に即した授業展開を駆使し、進路に有利となるよう資格所得に努めた。他の系列についても、生徒が興味関心のある系列で授業を受けることにより、伸び伸びとした雰囲気の中で、楽しく、かつ主体的な授業を展開することができた。

2. 生活指導の徹底と生徒支援の充実

学校運営方針の大きな柱の1つとして、一人前の社会人として通用する人物を育てる観点から「凡事徹底」の実践に生活指導を行っている。生徒の主体性を育成するため、生徒会活動にも力を注いだ。また、それぞれの悩みを抱える生徒への対応と相談室の活用にも尽力している。

(1) 凡事徹底の推進

挨拶・身だしなみ・時間厳守など「凡事徹底」を図るため、教員が一致した考えの下、生活指導に当たってきた。従来、部活生については、挨拶の徹底はできていたが、一般生については今一步の感はぬぐえなかった。しかし、教員からすすんで挨拶を励行することにより、現在はほぼ定着している。

生徒の姿・態度が本校の評価となる。H.R.などを活用しての指導や、毎月の通学路指導を展開することにより、生徒の意識づけを促している。こうした指導により、生活指導上の案件は減少した。しかし、携帯電話などの普及により SNS 関連の案件が発生してきた。これについては1年次での案件のみである。朝終礼・H.R.や学年集会、全校生徒への校内放送での指導が浸透してきている結果だと考える。しかし、令和元年度に SNS による大きな問題が発生した教訓を常に念頭に置き、今後も徹底指導を続けなければならない。

(2) 生徒会活動の充実

令和2年度より携帯電話の校内持ち込みを許可した。これは生徒会本部役員の公約でもあった。令和元年度に SNS による大きな問題が発生した翌年からのスタートということもあり、教員の中には不安視する者も多くいたが、地震や台風などの自然災害時の利便性も考慮してのことであった。この公約実現をきっかけとして、生徒会活動の活性化が加速してきた。多くの生徒は不可能と考えていたが、要求の実現を目の当たりにしたことにより、生徒会活動への協力が一気に加速した。また生徒会本部役員により「生徒会だより」を定期的に発行し、現在の活動内容、今後の活動予定などの情報を全校生徒に示し、生徒個々の積極的な協力を訴えている。

(3) 相談機能の充実と生徒の実態把握

入学時、中学校からの情報収集や「高校生活カード」などによる情報収集に関しては、従来通り継続している。しかし、それだけでは不十分であり、日々の生活の中での悩み、不安に感じていること、友人関係での問題など、担任・学年団・生徒サポート部が生徒に寄り添い、保護者との電話連絡・面談により関係を密にするよう取り組んでいる。

心的要因によると思われる不登校での中途退学した生徒は1年で5名、2年で4名あり、以前に比べ絶対数は減少している。

3. 進路指導の充実と進学実績の向上

今年度も学校紹介の就職においては、大手企業から中小企業まで多様な就職状況で、内定率100%を維持できた。進学においても有名大学への進学生も輩出できた。これは、2・3年での総合的な探求の時間の「進路研究」での指導、選択系列での「漢字検定系列」・「英語検定系列」・「数学検定系列」などを受講し、資格を取得したことにより、自己肯定感が向上したことなどがその要因と考えられる。

今後、グループディスカッションでの入試内容が増えてくる傾向の中で、授業の中でもこれに対応できる能力を築く授業体系を構築し、表現能力向上に努めていかなければならない。

56期生の進路状況（生徒数 220名）

就 職			進 学			その他	
学校紹介	公務員	縁故自営	大 学	短 大	専門学校	就労施設	未 定
27	1	10	133	3	41	3	2

主な就職先 : トヨタ自動車(株)・(株) きんでん・日本郵便(株)
 自衛官候補生・(株) 十川ゴム堺工場・柏原計器工業(株)

主な進学先 : 早稲田大学・東京理科大学・広島大学・関西大学・関西学院大学
 立命館大学・近畿大学・追手門学院大学・阪南大学

4. 入試広報活動の強化

今年度、近隣の公立高等学校が軒並み定員割れとなり、キャリアアップ・アドバンストコースの志願者数が伸びなかった。まずは、キャリアアップコースの入学生を増やすこと。そのため、今後の広報活動、オープンキャンパス・入試説明会の形態を見直し、本校独自の特色あるオープンキャンパスなどを開催できるよう全教職員で意見を出し合い、改善に努めなくてはならない。来年度までの中学校卒業生数は横ばいであるが、令和5年度からは急激に減少する。このことから、今年度は入学生の確保に向け邁進していく。

入試広報部では5名の教員が約450校の中学校を、また約200校の塾を訪問し、募集活動に努めた。令和2年度はコロナ禍の影響で6月以降の募集活動となったため、1校につき2~3回の訪問となった。特に地元の中学校、近隣中学校に重点を置いての訪問を実施してきた。

5. 各コースの取り組み

(1) アドバンストコース

在籍生徒の学力向上と進学実績の向上に努めた。1年次からコース独自の取り組みを展開し、3年次では指定校推薦入試に頼らず、一般入試などの受検方法を細かく指導した。2年次からは習熟度別、文系理系、選択教科を設け、あらゆる入試制度に対応した。

国際クラスでは早稲田大学・東京理科大学・広島大学・関西大学・関西学院大学などの進学実績をあげた。

(2) 調理・美術コース

次年度から3学年が揃う新設のコースである。1年次からコース独自のカリキュラムを展開してきている。各生徒の希望する進路を獲得すべく、実技だけでなく、専門的な知識の習得に努めてきた。各コースとも大学・専門学校と連携し、授業を展開していることも大きな特徴と言える。

次年度、進路指導をさらに充実させ、生徒のニーズに合った進路実績が残せるよう努めていく。

(3) キャリアアップコース

学習意欲の向上や、自己肯定感の育成に努めた。7つの選択系列を履修することにより、興味関心を引き出し、大学・専門学校と連携することにより、自己のキャリアについて真剣に考えさせた。こうした学びから、進路を決定する者も多い。

(4) キャリアアシストコース

中学校時代に不登校だった生徒、人間関係をうまく構築できない生徒などが多く入学するコースである。1年次より将来を考えて、職業訓練校などへの体験を通じ、進路について真剣に考える生徒も多い。令和2年度では就労施設へ就職する生徒もいた。担任は、毎日の家庭連絡に努め、生徒の変化にも敏感に対応している。残念ながら中学時代の不登校が改善されず、進路変更する生徒もいるが、毎日定時に登校し、楽しい高校生活を送っている生徒も多い。

(5) スポーツコース

強化部・準強化部に在籍する生徒のコースとして、文武両道、各競技の実績向上に努めている。中でも、バドミントン部・空手道部・日本拳法部・柔道部は全国大会に出場した。厳しい練習の毎日であるため、心身ともに鍛えられ、規律正しい生活を送っており、本校の重点目標である「凡事徹底」を率先して実践してくれている。各クラスにはリーダーシップを発揮する生徒が何人も存在する。

3 財務の概要

別添 令和2年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照